

# 札幌・ノボシビルスク市民交流の担い手

## 公益社団法人 札幌国際プラザ

～市民とともに歩む国際交流～

札幌市とノボシビルスク市が姉妹都市提携の盟約を結んだ翌年の1991年(平成3年)7月に財団化された札幌国際プラザは、文化・音楽・スポーツ等さまざまな分野においてノボシビルスク市との交流事業を支援してきました。さらに2000年(平成12年)6月29日にはノボシビルスク市にあるシベリア・北海道文化センターと姉妹団体提携を調印しました。

当財団では、市民の国際交流や多文化共生を推進するための事業を展開するとともに、地域の国際交流関係団体とも連携し、活動の振興に努めています。

市民ボランティアも積極的に国際交流活動に参加しており、様々な事業において当財団と協働して国際交流推進の力強い支えとなっています。さらに、国際相互理解の増進や人材育成のため、各国を知るセミナーや文化体験イベント、語学プログラムなど市民が楽しみながら学べる事業を展開しています。

### 【外国語ボランティア】

1972年冬季オリンピック開催をきっかけとして、国際化の波が押し寄せるなか「あなたの語学力を国際親善に役立ててください」をキャッチフレーズに1977年「外国語ボランティア制度」が発足し、2015年9月1日現在では507名が登録しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、小樽観光やイベント「レッツトークロシア語スペシャル」においてロシア語ボランティアの方々が活躍しました。



レッツトークロシア語スペシャルの様子

### 【ホームステイボランティア】

1968年7月に、国際親善、国際理解、オリンピックのための下地づくりを目的として「札幌市民泊受入家庭登録制度」が発足したのが始まりであり、1991年札幌国際プラザが財団化されたことに伴い、ホームステイ制度が確立されました。現在では約130家庭がボランティア家庭として登録しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、ホームステイを体験し、日本の食事や観光を共に楽しみました。

### 【日本文化体験ボランティア】

1992年に発足した「札幌天神山国際ハウスボランティア会」が、2008年3月の札幌天神山国際ハウスの閉館に伴い、札幌国際プラザ多文化交流部に所属を移行して現在の名称となりました。海外のお客様へ日本文化を紹介するため、茶道、着付け、折り紙、華道、書道の各分野で市民ボランティアが活動しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、茶道、着付けなどを実施しました。

### 【レッツトークプログラム】

札幌国際プラザの交流サロンを利用し、英、日、中、韓、露、独の各国語によるフリートークを通して、市民が外国語による気軽な交流ができるよう「レッツトークプログラム」を実施しています。参加無料、申込不要で、国際交流員のほか、札幌市在住の外国人も多く参加しています。集まった方たちは毎回様々なテーマでフリートークを楽しんでいます。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には「レッツトークロシア語スペシャル」を開催しました。

### 【各国を知るセミナー】

札幌市民に世界の国々の文化等について広く紹介し、相互理解を深める目的で様々な国を紹介するセミナーを実施しています。特に、姉妹都市のある国や地域を重視しており「ロシアを知るセミナー」は例年ノボシビルスク市からの国際交流員が行っています。現在の国際交流員マリナ・ラケーワさんも、2015年12月に「“しばれる”ロシア」をテーマにセミナーを行い、参加した市民は熱心に耳をかたむけていました。



ロシアを知るセミナー

# シベリア・北海道文化センター



Центр "СИБИРЬ-ХОККАЙДО"  
「シベリア・北海道」文化センター

ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センターは、札幌とノボシビルスクの協力のもと、相互の文化理解を進めることを目的に建設されました。建設にあたっては、北海道・ロシア文化協会が大きな役割を果たしました。1996年(平成8年)のオープンから、ノボシビルスク市民の勉強、交流、日本文化との触れ合い場所として一年中使われています。日本語能力試験、日本語教育シンポジウム、日本語弁論大会など、日本に関する様々な行事の他、空手や居合道、杖道などの教室も行われています。また、姉妹都市札幌博物館、日本に関する書籍やビデオが揃っている図書室もあります。年中行事の折り紙フェスティバルでは、札幌国際プラザの日本文化体験ボランティアの方に折り紙の折り方ビデオを送っていただき、参加者に大変喜ばれました。センター前の公園には、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携10周年を記念した並木と記念石があり、市民に親しまれる場として様々な行事が開催されています。

このセンターは、ノボシビルスクの人々に日本を紹介する、また日本人にロシア・ノボシビルスクをPRする施設としてノボシビルスク市が誇る施設です。日本語が堪能な職員が常駐しているので、ロシア語ができない日本の方々でも安心して訪れることができます。2000年(平成12年)には財団法人札幌国際プラザの提携団体となりました。また、長年の交流の功績が認められ、在ロシア日本国大使から表彰されたこともあります。

センターは朝早くから夜遅くまで活気があり、市民の明るい笑顔でいっぱいです。日本人観光客のみなさんも、ぜひ気軽にいらしてください!



## 「シベリア・北海道文化センター」の1年

2月	日本文化体験プログラム
3月	「雛まつり」日本文化祭・人形コンクール、学生会議、日本研究及び日本語教育学会
4月	「姉妹都市の日」(講演会など)
5月	子ども剣道カップ、シベリア囲碁大会、こどもの日 シベリア地域日本語弁論大会、子ども日本語弁論大会
6月	「まちの日」日本文化祭
7月～8月	札幌市からの少年交流団派遣および受入
9月	「知識の日」日本文化紹介プログラム、日本語学習者オリエンテーション
10月	ロシア剣道大会
11月	「どうぞよろしく」交流会、青少年空手大会
12月	日本語能力試験、ヨールカ祭



# 札幌姉妹都市協会

Sapporo Sister City Association

札幌市の姉妹都市交流は、1959年（昭和34年）にアメリカ・ポートランド市と姉妹都市提携を結んだのを皮切りに1972年（昭和47年）にドイツ・ミュンヘン市、1980年（昭和55年）に中国・瀋陽市、1990年（平成2年）にロシアのノボシビルスク市、そして2010年（平成22年）に韓国の大田（テジョン）広域市と提携し、交流の輪を徐々に拡大してきております。

ポートランド市、ミュンヘン市との交流は、それぞれの「姉妹都市提携委員会」が中心となって進められていましたが、札幌と姉妹都市間の交流事業の発展・拡大に伴い、複合的に姉妹都市の交流に関する情報提供を望む声が強くなりました。

こうした背景のもと、1986年（昭和61年）4月23日、「札幌姉妹都市協会」が設立され、1997年（平成9年）には、事務局が札幌市国際部から財団法人札幌国際プラザに移管されました。

同協会は以来、札幌、ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田との間で、教育、科学、芸術、体育、経済、技術等の分野で総合的な交流を図るための事業を推進し、姉妹都市間相互の友好親善に寄与するとともに、市民の異文化理解の推進等を目的として様々な活動をしています。

ノボシビルスクとの交流については、次のような事業などを行っています。

## 【ロシア語詩のつどい】

1991年（平成3年）から、姉妹都市提携記念事業のひとつとして、日本ユーラシア協会札幌支部との共催で実施しています。姉妹都市提携25周年にあたる2015年（平成27年）には「第25回ロシア語詩のつどい」が在札幌ロシア連邦総領事館において開催されました。ロシア語による詩の朗読や懇親会を通じて、札幌市民のロシア文化への理解を深める事業として継続しています。



ロシア語詩のつどい（平成27年）

## 【ロシア語弁論大会】

ロシア語学習の普及を通じてロシアの文化・社会の理解を促進するために、日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の主催により1969年から開催しています。札幌国際プラザ・札幌姉妹都市協会はこの事業を後援しており、大会の特別賞として『札幌姉妹都市協会賞』を出賞しています。

## 【姉妹都市パネル展】

より多くの市民の方に姉妹都市について紹介するため、毎年1回、5つの姉妹都市の観光名所や街の様子を紹介する写真パネルやポスターなどを展示しています。



姉妹都市パネル展



## 『似たもの同士の相違点』

札幌市国際交流員  
マリナ・ラケーワ

「札幌はオリンピックをきっかけにしてミュンヘンと姉妹都市になりましたが、ノボシビルスクと姉妹都市になったきっかけはなんですか」と聞かれた時、決定的な一つのきっかけはあったのだろうか、答えに詰まりました。実は、両市の市民交流は1974年から始まり、まるですでに姉妹都市になっているかのように盛んに交流が行われていました。そして、ノボシビルスクはオリンピックを開催したことはまだありませんが、気候、規模、歴史など似た特徴があり、それぞれの地域の文化・科学などの中心都市であるという点で札幌との共通点はたくさんあり、結果的に姉妹都市提携を結びました。しかし、今回は皆さんがご存じの共通点ではなく、お互いの知らないところについて紹介したいと思います。

例えば、気候に関してお互いに驚くことがあります。両市は雪が多く、寒い冬があります。しかし、その冬のイメージは、ノボシビルスク市民と札幌市民では結構違います。私は2007年10月に初めて札幌に来て、一年間留学をしました。その時まちの中心からあいの里まで通学して、「ノボシビルスクより、雪がずっと多いな」と思いながら、札幌の大雪をよく感じました。でも、日本人の友だちに「札幌は本当に雪が多いですね」と言うと、「いえ、今年は少ないですよ」と言われました。ノボシビルスクの市民は札幌のような大雪は多分想像できない、と思いました。今は、ノボシビルスクの人から「札幌はノボシビルスクと同じで雪が多い」と聞くと、本当に「雪が多い」というのはどういうことか、札幌に来て実感して欲しいなと思います。

一方、札幌の市民は「本当に寒い冬」ということをよく分かっていないようです。交流員の業務として、小・中・高校に派遣されて、ロシア・ノボシビルスクについて紹介しています。「札幌とノボシビルスクと、どちらが寒いと思いますか」と聞いたら、多くの小学生は「札幌!」と答えます。でも、気温が毎年マイナス30度以下まで下がるノボシビルスク出身の私には、札幌の冬は冬らしくありません。とても暖かいです!シベリアの人は冬の気温について話すとき、わざと「マイナス」と言いません。冬なら、マイナスは当たり前だからです。そして、天気予報でも「明日は氷点下15度まで暖かくなるでしょう」のような日本人にありえない表現も出てきます。勇気のある方、ぜひノボシビルスクの真冬も体験してみてください!

両市には、おもしろいところがたくさんあります。姉妹都市提携を結んで、四半世紀にわたってお互いについて分かったことを忘れずに、次の四半世紀にもお互いの特徴をもっと勉強し、よく知っていくことが、国際交流における私の第一希望です。

### 【プロフィール】

ロシア・ノボシビルスク生まれ

2003年	ノボシビルスク国立教育大学歴史学部世界文化学・日本語教育学科入学
2007年10月～2008年9月	北海道教育大学札幌校に交換留学
2009年	ノボシビルスク国立教育大学歴史学部世界文化学・日本語教育学科卒業
2009年9月～2014年7月	日本語教師として、ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター勤務
2014年8月～	札幌市国際交流員として、公益財団法人 札幌国際プラザ勤務

## 札幌市の歴代国際交流員（ロシア担当）からメッセージ

札幌市で活躍しているロシア担当の国際交流員は、札幌とノボシビルスクの結びつきの強さを示すように、これまで全員がノボシビルスク市出身の方々です。

姉妹都市提携 25 周年にあたり、歴代の国際交流員の皆さんから、お祝いのメッセージをいただきましたのでご紹介します。

### ❖マリーナ・カリュジノワさん（1995 年 9 月～1998 年 8 月）

現在：ノボシビルスク国立教育大学准教授

『国際交流にずっと携わっていきたい』

帰国してからずっとノボシビルスク国立教育大学で日本語を教えています。北海道教育大学の札幌校との大学間交流、留学生の派遣・受入れも担当しているので、札幌市民との交流を続けられる仕事を非常に嬉しく思っています。2004 年に北海道教育大学の修士課程を修了し、修士学位を取得しました。その後、東京や名古屋、仙台などの日本語教育国際研究会や東北大学主催セミナーでの発表を行ったり、日本の研究雑誌で論文を掲載したりして、研究を続けています。

そして、国際交流にずっと携わっていききたい気持ちが強くて、教師の仕事をする傍ら通訳・翻訳の仕事の依頼も受けるようにしています。日本厚生労働省の訪問団や欧州復興開発銀行の訪問団、東北大学とロシア科学アカデミーなどのプロジェクト、第 5 回と第 11 回の日本・ロシアフォーラムの公式通訳をし、昨年、ロシアのソチで開催された第 XXII オリンピック大会の NHK ユニ、スーパーハイビジョン現地スタッフとしてリサーチャー、番組コーディネーター、公式通訳などを勤めさせていただいて、光栄に思っています。

そのような仕事のなかで、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携 10 周年、15 周年、20 周年記念事業で両市の市長一行と市議会一行の公式通訳をしていたので、再び札幌を訪れる貴重なチャンスに恵まれて、とても懐かしかったです。これからも姉妹都市間交流の成長ぶりを楽しみにして、そのために全力を尽くしていきたいと思っています。



### ❖タイシャ・チーニナさん（1998 年 7 月～1999 年 7 月）

（イギリス在住）

### ❖イリーナ・プーリクさん（1999 年 7 月～2002 年 7 月）

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター副館長

1980 年代、私が中学生の時、21 世紀をどこでどのように迎えるか、よく考えることがありました。そのとき、それを日本の姉妹都市・札幌で迎えるとは、想像もできませんでした。日本は資本主義の世界、越えられない壁の向こうの国でしたが、世界情勢の変化につれて、ロシアと日本の交流が盛んになり、1990 年にノボシビルスクと札幌は姉妹都市交流を始めました。25 年の間、姉妹都市交流の事業は、良



い意味で日常的なものになりました。そのような活発な交流の実現のため、両市の友好団体、ボランティア、若者、アーティスト、音楽家、武道家の皆様に素晴らしい貢献をしていただきました。また、ノボシビルスクからの国際交流員は立場が変わっても、姉妹都市交流をサポートしつづけ、大切にしています。自分もそうだから、幸せだと思います。

心の中にある「姉妹都市交流のシンボル」は「涙」だと思います。札幌の皆さんはノボシビルスクを訪れ、空港でお別れするときによく涙を流します。ロシア人も同じように札幌から帰るときに、よく泣きます。その涙とは、親しくなった友だちとのお別れが寂しいからですが、本当の幸せの表情だと思います。

### ❖マリーナ・ピリペンコさん (2002年8月～2005年8月)

現在：ユニクロ・ロシア CS担当者 (モスクワ在住)

3年間大変お世話になりました札幌に対して、いつまでも心から感謝しています。札幌国際プラザ、市役所、上田市長、市民の皆さん、とても優しく、色々と教えて頂き、応援して頂き、お陰様で、一生忘れられない思い出と貴重な経験ができました。国際交流員も家族のように感じて、一緒に頑張っ、一緒に楽しんで、一緒に札幌のことを好きになりました。



札幌は、世界で一番市民と観光者にやさしい、楽しい街だと思います。仕事だけではなく、趣味も、池坊の生け花レッスン (大好きな井上先生)、市役所のバスケットのチーム、ロシア語の Let's Talk のグループ、学校訪問の時に知り合った先生たちと生徒たち、皆のことを覚えているし、感謝しています。一期一会の出会いでした。

### ❖アンナ・サヴィヌイフさん (2005年8月～2008年7月)

現在：北海学園大学ロシア語教師

(2015年10月の25周年記念式典・祝賀会でロシア語の司会を担当)

姉妹提携 25 周年、おめでとうございます！

国際交流員の仕事を終えて、家族の都合で札幌に残ることになりました。現在は通訳・翻訳もしながらロシア語教師と 2 児の母として忙しく、そして楽しく毎日を送っています。



札幌は規模的、気象的、雰囲気的にノボシビルスクにとっても似ているため、もう 10 年となった札幌生活にすぐ慣れました。

札幌の皆様にロシアやノボシビルスクをもっと身近に感じていただくため、ロシア語やロシア文化を教えることに努めています。ロシアの魅力を感じていただき、実際にロシアを訪れて、さらにロシアを好きになっていただきたいと思います！

札幌とノボシビルスクはさらに仲良くなるように私も頑張っていきます！

### ❖イリーナ・シュクリナさん (2008年8月～2011年8月)

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター職員

大学に入学し日本語を勉強し始めたとき、是非将来日本や日本語に関わる仕事をしたいという夢を持っていました。そして2年生の学年末に札幌国際プラザの大学生交流プログラムに参加できて、札幌に行くことができました。しかし、あの時もまさか5年後に札幌へ行って、国際交流員として仕事ができることになるとは想像もできませんでした。大好きな札幌で仕事をして、札幌の市民に「近くて遠いロシア」を少しでも近く、親しく感じられるように仕事をするのはとても大切な経験になり、温かい思い出がたくさんあります。

現在ふるさとのノボシビルスクに帰っても、シベリア・北海道文化センターで働き、ノボシビルスクの市民に日本の文化や姉妹都市札幌について説明しています。今もまだ、国際交流員の仕事が続いていると思います。これからもたくさんの札幌市民が姉妹都市ノボシビルスクを訪問できることを期待しております。皆さん、ぜひノボシビルスクにお越しください！



### ❖マキシム・サゾフさん (2011年8月～2014年7月)

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター日本語教師  
(2015年10月にノボシビルスク市訪問団の一員として1年ぶりに来札)

札幌の皆さま、こんにちは！

札幌とノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念おめでとうございます！

25年間にわたり札幌とノボシビルスクとの関係は密接になり、両市の市民の方々も互いのことをよくわかるようになり、両市はお互いに地理的に遠いのに、近く感じるようになってきたのではないかと思います。ノボシビルスクと札幌はとても似ている街だと思います。両市とも若い街ですが、急速に発展して、両国でも有数の大規模な都市になりました。そして両市に住んでいる人たちもとても似ていて、これからもお互いに協力をしながら両市の発展のために頑張りたいと思います。両市の一般市民の間の密接な関係は両国の市民の良い手本となり、心と心を結ぶ関係は国と国を結ぶ関係になるようにお祈りします。

札幌での3年間の生活を終えて、ノボシビルスクに帰りました。今は日本語教師として、自分の生徒に大好きな札幌はどんな街であるかと教えようとしています。生徒たちも日本語ができるようになり、自分で札幌に行ってみて、札幌のことが好きになってほしいからです。

結びに改めて姉妹都市提携25周年記念おめでとうございます。これからも両市の関係、一般市民の関係を発展させるために一緒に頑張りましょう。





# 広がる交流活動

## ◆◆◆音楽交流◆◆◆

音楽の分野では、ノボシビルスク国立グリンカ音楽院と北海道国際音楽交流協会（ハイメス）との交流が、大きな役割を果たしている。バイオリニストのアントン・バラホフスキーやソプラノ歌手エテリ・グワザワをはじめ数々の音楽家を札幌に紹介する一方、ハイメス所属の音楽家もノボシビルスクで公演を行っている。1992年（平成4年）には、グリンカ音楽院に「日本音楽・文化科」が設置され、藤田道子（声楽）、故高垣幸子（箏）らが名誉教授、佐藤のり子（箏）、雨貝尚子、野田廣志（声楽）らが客員教授を拝命し、定期的にマスタークラスの指導に当たっている。さらに1992年、音楽院付属「日本音楽文化センター」が開設。ハイメスとこのセンターは1995年（平成7年）に提携を結び、活発な交流を続けている。2000年（平成12年）、ハイメスの支援で長期日本留学をした日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤは、2005年（平成17年）に「山田耕筰と日本近代音楽作曲家の作品」で音楽科学博士号を取得。2003年（平成15年）、シベリア・北海道文化センターでも、音楽院の教師が教える箏教室が開催された。2005年（平成17年）10月から北海道教育大学札幌校に1年間留学していたノボシビルスク国立教育大学生アリーサ・トルマチョワが故高垣幸子の指導を受けている。2010年（平成22年）6月には、姉妹都市提携20周年を記念し、ノボシビルスクでグリンカ音楽院とハイメスの共同コンサートが開催された。同年8月には、音楽院副学長タチアナ・ソロキナが、札幌で開催された札幌国際プラザ・ハイメス共催のコンサートで詩の朗読を行った。

また、パシフィック・ミュージック・フェスティバルに、シベリアの若き音楽家たちも参加。

その他、ノボシビルスク出身の指揮者故アーノルド・カツが、1991年（平成3年）と1994年（平成6年）の2回札幌に招かれ、札幌交響団を指揮、1997年（平成9年）には自身が首席指揮者を長く

勤めるノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団とともに来札し、札幌コンサートホール Kitara で公演を行い、札幌の音楽ファンを魅了した。

2015年（平成27年）には、姉妹都市提携25周年を記念して、ハイメス所属のソプラノ歌手松井亜樹（札幌大谷短大保育科講師）とピアニストの高橋健一郎（札幌大学ロシア語専攻教授）がグリンカ音楽院主催「日露音楽コンサート」に招待され、日本語とロシア語で歌を披露した。



音楽院大ホールにて（公式HP [www.nsglinka.ru](http://www.nsglinka.ru) より）

## ◆◆◆バレエ交流◆◆◆

北海道インターナショナル・ダンスシアター主宰小沢輝佐子舞踊団は、両市の提携前から独自にノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団と交流提携を結び、合同公演を開催し、両市のバレエ交流の基礎を築いた。

そのほか、久富淑子バレエ研究所から、現在まで12名の留学生が、全ロシアでも有名なノボシビルスク国立舞踊専門学校で学んだ。

大杉洋子バレエアカデミーは、1998年（平成10年）からノボシビルスク舞踊学校と交流を行っている。2000年（平成12年）7月に札幌市、2001年（平成13年）2月にはノボシビルスク市で、大杉洋子のオリジナル振付けに基づき、プロダンサーや舞踊学校の生徒が出演した合同公演「夕づる」が上演されたほか、2003年（平成15年）からはノボ



シビルスク国立舞踊専門学校卒業生であるアナトリー・スタヴロフが、同アカデミーの教師を勤めている。

ノボシビルスク市が誇るノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団も、これまで何度も札幌での公演を行っている。2015年（平成27年）には姉妹都市提携25周年を記念し、ロシア出身のダンサーによる「くすみ割り人形」が札幌で公演された。



## ❖❖❖ 演劇交流 ❖❖❖

ノボシビルスクを代表する国立劇場「クラスヌイ・ファケル」と札幌演劇鑑賞協会は、1991年（平成3年）「相互招待に関する覚書」を結び、お互いの演劇事情を学びあっている。

提携5周年を記念して、原子修氏を監督とする詩劇「ピンネシリ」ロシア公演一行がノボシビルスクを訪れ、市民同士の文化交流を行った。一方、ノボシビルスクからは「人形劇場」が札幌で公演している。

2000年（平成12年）には姉妹都市提携10周年を記念し、国立劇場「スターレイ・ドム」一行が来札、怪談「牡丹燈籠」公演を行い、ロシアの劇団が日本の物語を演じるとのことで話題を呼んだ。

2010年（平成22年）には、ノボシビルスク州立人形劇場の一行が再び札幌を訪れ、公演を行っている。

## ❖❖❖ 美術交流 ❖❖❖

2013年（平成25年）には、ノボシビルスク創立120周年として武蔵野美術学院の教員と学生による「サッポロ未来展」をノボシビルスク市立美術セ

ンターにて開催した。

切り絵作家の畑中玉子は、2012年（平成24年）に札幌・ノボシビルスク友好交流協会の会員としてノボシビルスクを訪れ、3か月の滞在でワークショップや講演を行った。そこで切り絵を学んだロシア芸術家連盟のヴィクトリア・バトゥーリナとともに、2015年（平成27年）の姉妹都市提携25周年では、ノボシビルスク市立美術センターにて切り絵の共同展示会を開催した。



## ❖❖❖ スポーツ交流 ❖❖❖

中学生を対象とした「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」は1985年（昭和60年）から、姉妹都市提携記念年に対象都市で開催し、他の3都市が参加するという形態で始まり、ノボシビルスク市は新たに姉妹都市となった1990年（平成2年）に瀋陽市で開催された大会（男子柔道）に初めて参加した。

その後、1992年（平成4年）の男子バレーボール（ミュンヘン市）に出場。1994年（平成6年）からは、姉妹都市提携記念年に札幌市と対象都市間での交流を行うこととし、1996年（平成8年）から5年ごとに札幌で5都市間交流を行う方式に改められた。なお、ノボシビルスク市は瀋陽市と周年事業が重なることから、2年繰り上げた1998年（平成10年）から5年ごとに行うこととなっている。

最近の交流は、2013年（平成25年）6月、札幌から柔道選手団10名を派遣し、同市で行われた「スポーツ・文化・知性 国際子ども大会」の柔道種目に出場した。

また、この年の10月に開催された「札幌マラソン大会」には、ノボシビルスク市から監督1名と選

手3名が参加し、男子10kmの部で優勝するなど好成績を残している。



## ◆◆◆ 剣道交流 ◆◆◆

ノボシビルスクでは、剣道や空手など武道が盛んである。特に剣道では、1996年に創立されたロシア剣道連盟シベリア支部が、ノボシビルスクを中心にシベリア地方全域で活動をしている。全ロシア剣道大会でノボシビルスク市民としては、個人で2002年と2005年、チームでは1999年、2000年、2002年に優勝している。全ロシア剣道大会は2003年(第5回)、2005年(第8回)、ノボシビルスクで開催された。2000年から定期的に北海道剣道連盟が指導を行っており、2001年、2002年、2003年、2005年、2007年には、ノボシビルスクにて講習会を開催。1999年からはシベリア・北海道文化センターにて剣道の子供グループが活動開始。2002年に開催された北海道剣道連盟創立50周年記念剣道祭以来毎年、ノボシビルスクから剣道、居合道、杖道の講習会を受けるために来札している。

## ◆◆◆ 少年交流 ◆◆◆

1990年(平成2年)提携時にインディノク・ノボシビルスク市長が、未来を担う若者たちの交流をぜひ行いたいと表明し、「覚書」の中に少年交流の実施が盛り込まれ、翌年の平成3年から「ノボシビルスク少年交流事業」としてスタート。各種交流を通じて相互交流と友好親善を深め、ホームステイや異文化体験プログラム等を通して、他国の生

活習慣や文化に触れることにより、国際的視野の広い青少年の育成を図ることを目的に中学生・高校生の派遣・受入を実施している。

2011年度からは、その前年に札幌市と姉妹都市となった韓国・大田広域市がノボシビルスク市とも姉妹都市提携を結んでいたことから、3都市による交流事業へと発展し、以来、3都市での持ち回りにより実施している。

直近では、2015年7月、札幌市訪問団11名(中学生8名、引率3名)と大田広域市の少年少女がノボシビルスク市を訪問し、ホームステイなどを通して交流を行った。



姉妹都市少年交流事業 派遣・受入状況  
(大田広域市が加わった2011年度以降の実績)

年度	開催地	少年少女	引率	計
2011年	札幌	20	9	29
2012年	ノボシビルスク	10	3	13
2013年	大田	10	3	13
2014年	札幌	20	6	26
2015年	ノボシビルスク	8	3	11

※開催地が札幌の年度は両市からの受入人数  
開催地が他市の年度は札幌からの派遣人数

また、2010年(平成22年)の姉妹都市提携20周年の際に札幌の市民訪問団がノボシビルスク市第22番リセー小学校に訪問したことをきっかけとし、札幌市立山鼻南小学校との交流が始まった。同年7月にはノボシビルスク市立の小学生が札幌を訪れ、2度山鼻南小学校を訪問している。その

後2年間に渡り、ノボシビルスク日本語青年訪問団が来札する折に合わせて、メッセージカードや写真の交換を行った。その後も日本語青年訪問団が札幌に滞在する際には、山鼻南小学校での交流プログラムを行っている。

## ❖❖❖ 学術交流 ❖❖❖

ノボシビルスク市の郊外に開発された学術地区「アカデムゴロドク」はロシア科学アカデミー・シベリア支部が置かれており、姉妹都市関係を契機として、大学・学術機関同士の協力関係も始まった。

この間、札幌大学考古学研究室とロシア科学アカデミー・シベリア支部「考古学・民族学研究所」、北海道大学大学院経済学研究科とロシア科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」、北海道大学大学院理学研究科とロシア科学アカデミー・シベリア支部「地質学・地球物理学研究所・鉱物学連合研究所」及びノボシビルスク国立大学の間で、派遣、受入、共同研究などが行われている。北海道教育大学札幌校とノボシビルスク国立教育大学、北海学園大学とノボシビルスク国立大学及びシベリア国立交通大学は派遣、受入以外に学生交流も行っている。北海学園大学では2002年から「日ロ国際シンポジウム」を開催。

その他、札幌国際日本語学院では、ノボシビルスクから留学生の受入(2000年～2004年毎年2名無料)を行っており、これからも日本語学習者が多いノボシビルスクからの日本語・日本文化留学が期待される。

2013年(平成25年)には、北海道大学「持続可能な低酸素社会づくり」プロジェクトの主催で、ノボシビルスクと大田から研究者や実務者を招き、環境問題に関する「三姉妹都市科学シンポジウム」が開催された。

2014年(平成26年)に、ノボシビルスク国立経済・経営大学の教員と学生の11名が、日本の大学との交流、視察を目的として札幌を訪れた。滞在中は、札幌大学、北海学園大学、小樽商科大学を訪れ、ロシア語を学ぶ学生や経済を学ぶ学生たちと交流した。



## ❖❖❖ 経済交流 ❖❖❖

両市間経済交流の推進は、まず、お互いの異なる経済事情を理解しあうことが重要との認識からスタートした。

2003年(平成15年)4月にはアカデムゴロドクのIT会社社長ら2名が研修及び会社の紹介を目的に来札。

同年6月、シベリア建築会社は北海道ロシア文化協会長の根本氏と、建築、輸入、輸出に関する商談を行うなど徐々にではあるが、交流が続いている。今後も経済交流を促進していくことが課題となっている。

## ❖❖ 国際雪像コンクール ❖❖

さっぽろ雪まつり期間中に行われており、1チーム3名編成で美しさを競う。ノボシビルスクチームは、1991年(平成3年)の第18回大会から参加しており、翌年の第19回大会では、参加2回目にしてBグループ優勝を飾った。

その後、平成5、8、9、10、12、13、18、22、23年の大会に参加。

本市の他の姉妹都市を始め、世界各国の参加者や札幌市民との友好を深めている。